

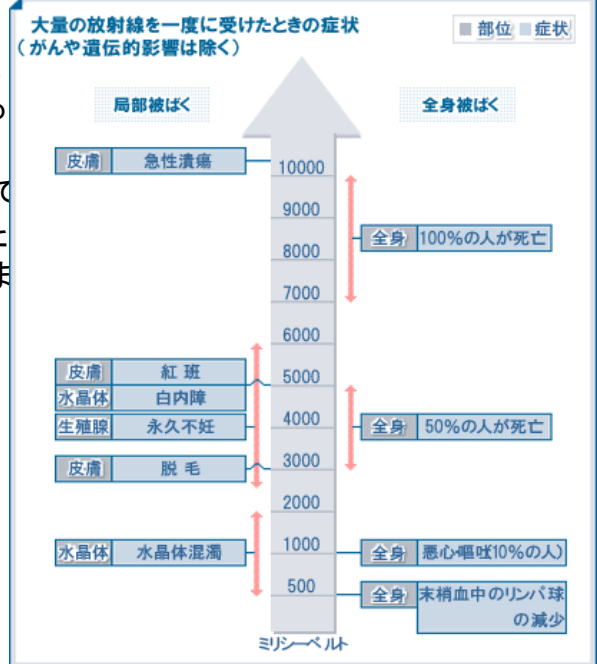
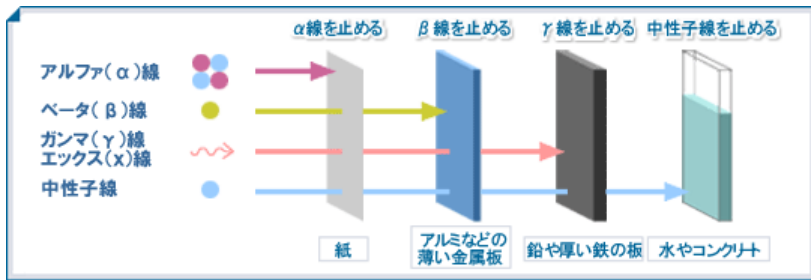
いつもあなたのそばに・・・おひさま薬局です



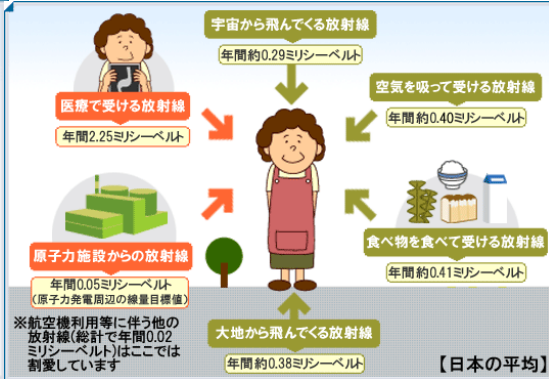
東北地方を中心にM9の大きな地震が起きました。毎日放送されている現地の様子、原子力発電所の様子も気になります。ストレスや疲れがたまっている方もいるのではないかと思います。皆さんが気になっている放射能のことお話しします。

放射線はどうして怖いのでしょうか？

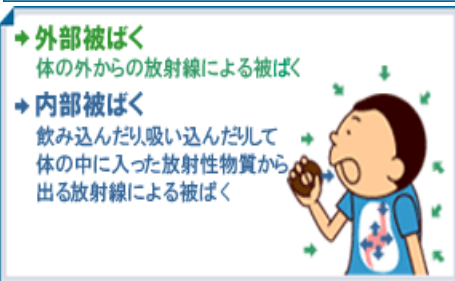
生物が放射線をあびると細胞の中の遺伝子が壊れたり構造が変わったりします。大量の放射線を浴びた時には身体に備わっている修復能力(修復酵素が遺伝子の配列を修復したり、その修復に失敗すると細胞分裂しないように「細胞の自爆」アポトーシスを起こして異常な細胞が増えないようにする)が追い付かず、髪の毛が抜けたり、白血球が少なくなったり、ガンになりやすくなるということがあります。ただし、1年間に100ミリシーベルトより低い線量では臨床症状は確認されません。



放射線には種類がありますが、屋内に(特にコンクリートの建物の中)避難すれば被ばくは避けられます。



自然界の岩石などからは普通に放射線が出ており、1年間にあびる量は世界平均で2.4ミリシーベルト程度です。レントゲンを撮ったりMRI検査を受けても放射線を浴びています。それでも私たちの健康に問題がないのは、細胞に修復能力があるからです。



食品や水道水から検出された放射性物質は「ヨウ素131」と「セシウム137」です。単に身体の中を通り過ぎていだけならば良いけれどヨウ素は甲状腺に蓄積するし、セシウムは体内に普通に存在するカリウムと入れ替わって筋肉に蓄積してしまいます。体内の組織に蓄積してしまうことで、汚染の除去が困難で長期間被曝し続けることとなります。但し排便、排尿等に伴い半減期30年と言われるセシウムも生物学的には約90日で半減されると計算されています。

- 1kg当たり500ベクレル前後の放射性物質を含む水道水を長期に渡って飲んだ場合の健康への影響を考えてみます。
1. 毎日1リットルの水道水を飲むとすると、1年間で総被曝量は4ミリシーベルトと計算されます。(日本産婦人科学会HPより抜粋)
 2. お腹の中の赤ちゃん(胎児)に悪影響が出るのは50ミリシーベルト以上の場合と考えられます。赤ちゃんの被曝量は、母体の被曝量に比べて少ないとされています。
 3. 母乳中に分泌される放射能活性を持ったヨウ素は母体の摂取した量の4分の1と推測されています。
 4. 以上の事から現時点では妊娠中・授乳中女性が水道水を連日飲んでも、母体並びに赤ちゃんに健康被害は起こらないと推定されます。授乳を持続しても乳幼児に健康被害は起こらないと推定されます。
 5. 胎児・乳幼児は成人に比べ被曝の影響を受けやすいとされています。被曝は少ないほど安心です。水道水以外を利用できる場合は、それらを飲用することをお勧めします。今後も水道水のベクレル値には注意しててください。

放射性物質は通常の浄水処理(凝集沈殿・砂ろ過)や活性炭処理の除去効果が確かめられています。通常家庭用の浄水器や煮沸では放射能を除去できません。ただ今は日野市の関わる浄水場(小作)からは放射能は検出されていません。

様々な情報が流れ不安を抱くことも多いかと思います。「甘く見ない」「怖がり過ぎない」ことが大切ですね。

し
え
ノ
)
D
、